

上那賀中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

①「意欲的に学習に取り組み、「基礎的・基本的な知識・技能」を定着させ、それらを活用する力を身につける指導の充実」
②「学校から家庭へ協力を求め、家庭学習習慣の確立をめざす」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 岩川 卓央
委員 校長 谷 浩行 教頭 田邊 幸代
教務・進学 本田 晴啓
研修・3年生主任 岩川 卓央

校長

谷 浩行



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 漢字の読み書きや数学の基本的な計算力についてはある程度定着がみられる。	①家庭学習の時間を確保し、宿題や自主学習ノート、セミナーなどを毎日提出できる。 ②基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。	関心・意欲・態度に関する評価が「B」以上の生徒が8割を超える。			
課 題 学力については個人差が大きく、一部の生徒では学習意欲と関連して基礎・基本の定着が不十分である。	①学習者に対して本時の活動目標を明確にする。 ②小テストを継続的におこなう。 ③本時のまとめをする。 ④自己評価カードを作成する。	①本時の活動目標を板書する。 ②一週間に一回程度、小テストをする。 ③口頭で本時の授業内容を振り返る。		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 「基礎的・基本的」な事項についての発問に関しては、積極的に発表し、まじめに授業に取り組むことができる。	授業の中で考えさせる場、表現させる場を設定し、筋道を立て論理的に自分の考えや意見を積極的に発言できる。	表現力に関する評価が各学期ごとに「B」以上の生徒が8割を超える。			
課 題 課題に対し「基礎的・基本的」な事項を用いて、言葉や文章で表現したり説明したりすることに課題がある。	①「思考力・判断力」を高める授業を意図的に展開する。 ②研修によりお互いの手立てを交換する。 ③定期テストにおいて、学力調査B問題のような活用する力を育てる問題を作成する。	①考える場面、表現する場面を取り入れた授業を展開する。 ②全ての教員が公開授業を実施し、授業研究会を行う。		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 大きな挨拶で始まり、挙手発表も積極的に行おうとしている。授業では与えられた課題についてはまじめに取り組むことができる。	①家庭学習の定着を図り、自主的に課題を見つけ、取り組むことができる。 ②意欲的に読書をし、新聞を読むことができる。	①自主学習ノートを全員提出できる。 ②家庭で読書をしたり新聞を読んだりする生徒が5割を超える。			
課 題 与えられた課題に対しては、おおむね取り組んでいるが、自ら課題を見つけ、解決する取り組みは十分ではない。	①具体的な課題や時間を設定し目標を持って取り組ませる。 ②月一回、朝のセミナー学習を中止し「読書週間」を設ける。 ③生徒会活動の活性化を図る。 ④TTの活用や指導方法の研修を深める	①設定した課題や家庭学習目標時間を7割以上の生徒が達成する。 ②生徒会が主体となって学習目標を設定する。 ③全教員がTTの活用を意識した公開授業を実施する。		評価	次年度における改善事項

平成29年度 学力向上ロードマップ

